

北信地区野球協会

令和6(2024)年度 定期総会

議案書



期日

令和7年 2月8日(土)

受付 13:00~13:40

定期総会 13:45~14:45

講演会 15:00~17:00

懇親会 17:30~

会場

ホテル国際21



定期総会 内容

司会者 小林 大真（北信地区野球協会 総務委員長）

1. 開会の言葉

2. 会長挨拶

3. 議長指名と総会成立報告

4. 議事

第1号報告	第7回北信野球の日について
第2号報告	第2回ティーボール大会について
第3号報告	令和6年度 事業報告
第1号議案	令和6年度 収支決算
第2号議案	令和7年度 事業計画
第3号議案	令和7年度 予算案

議長退任 質疑応答 意見交換

5. 連絡 その他

- ・北長野クラブ 全国大会報告
- ・チームN 関東大会報告
- ・プロアマトーナメントについて

6. 閉会の言葉

○パネルディスカッション

「子どもを伸ばすコーチング術～勝つためのアプローチ～」

講師 小金沢和範先生（佐久長聖中学校 野球部監督）

松橋将之先生（長野日大高校 野球部監督）

小林正具先生（長野俊英高校 野球部監督）

第7回北信野球の日実施報告

令和6年12月1日(日)

※関係のべ人数3310名

普及イベント

長野オリンピック
スタジアム

第1部9:30~11:30
第2部12:30~14:30

関係者総数名2191名

継続イベント

野球教室
2会場

関係者総数：356名

野球交流会
12会場

関係者総数：826名

普及イベント 対象：野球未経験者

入場者数1751名
(受付フォーム結果)
運営スタッフ440名



運動プログラム



ラグビー体験



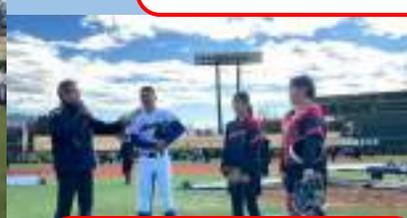
ストラックアウト
スピードガン体験



ソフトボール体験



ホームラン体験



ソフトボール
VS
野球



キャッチボール体験



野球教室

関係者356名

対象：少年野球4年生 262名 スタッフ：94名

信濃グランセローズ

中野立志館会場

参加
少年野球
136名



信濃グランセローズ選手 10名
中野立志館高校野球部員 4名
中野西高校野球部 34名

信越硬式野球クラブ

信越グランド会場

参加
少年野球
126名



信越硬式野球クラブ選手 19名
長野工業高校野球部員 27名

野球交流会

参加者826名

少年野球高学年428名 中学軟式・硬式398名

飯山高校会場

少年野球 40名
中学生 45名

長野高校会場

少年野球 36名
中学生 35名

長野南高校会場

少年野球 35名
中学生 25名

中野西高校会場

少年野球 29名
中学生 24名

長野商業高校会場

少年野球 34名
中学生 34名

篠ノ井高校会場

少年野球 30名
中学生 37名

須坂創成高校会場

少年野球 49名
中学生 30名

長野工業高校会場

少年野球 33名
中学生 27名

松代高校会場

少年野球 33名
中学生 36名

長野東高校会場

少年野球 28名
中学生 22名

更級農業高校会場

少年野球 41名
中学生 37名

屋代高校会場

少年野球 40名
中学生 46名

北信野球の日小中交流会 開催報告

北信地区野球協会は12月1日（日）に小学5、6年生対象の「小中交流会」を小学生388人、中学生440人、合計828人の参加のもと、北信地区高校グラウンド12会場で盛大に実施しました（飯水地区のみ11月16日に実施）。

小学生が近隣少年野球チームの児童や中学生と交流したり、試合や硬式球での体験を行ったりする中で、「中学校でも野球をしたい!」という意欲を高める目的で交流会を実施しました。

交流会では、他の少年野球チームの児童や中学生とチームを組んで活動を行いました。はじめはお互いにかたさが見られましたが、徐々に打ち解け、試合中の応援やハイタッチ、そしてたくさんの笑顔が見られました。

参加した児童からは「先輩たちが優しく接してくれて、嬉しかった。早く先輩たちと一緒に活動したい」といった声が聞かれました。また観戦していた保護者の方からは「普段は同じチームのため真剣勝負をすることがない友達と対戦しており、とても楽しかった」、「いつもとは違うポジションをやっている」、「子どもが所属している少年野球チームは高学年が少ない。今日のように高学年のたくさんの仲間とレベルの高い試合ができて楽しそうだ。とても貴重な機会でありがたい」といった声が寄せられました。



また硬式球体験では、普段よりも大きく重いボールやバットを使い、バッティング練習や守備練習を行いました。「打った時のカキーンという音が良く、とても楽しかった」、「芯を外すと、手がしびれて痛い…」実際にやってみることで、硬式球で野球をすることの面白さや難しさを感じることができました。



青空の下、バッティング練習



高校の室内練習場をお借りして活動

終わりの会では参加した中学生チームがパフォーマンスや実技を披露し、それぞれのチームをPRすると共に、会場を盛り上げました。

天候にも恵まれ、新たな仲間との出会い、そしてその仲間と野球をすることの楽しさを感じられたと思います。小学生の皆さんには今回の交流会だけでなく、中学生チームの体験会などにも積極的に参加し、中学校でも野球を続けてもらえればと思います。





(各ブロックの決勝に進出した8チームの集合写真)

第2回長野県ティーボール大会 開催報告

長野県野球協会と北信地区野球協会は11月23日(土)にU-10(小学1~4年生)対象の「第2回長野県ティーボール大会」を選手約300人、家族や指導者ら約900人、計約1,200人の参加のもと、長野オリンピックスタジアムで盛大に実施しました。

ティーボールは投手が投球する代わりに、棒状の台(バッティングティースタンド)にボールを置き、バットで打つ競技であり、野球への入り口として親しまれています。今回は第2回大会ということで、連続出場したチームを中心にスピード感のあるプレーやアグレッシブなプレーも多く見られました。普段は基本練習に偏りがちな年齢の子も試合の中で動きを学んだり、声を掛け合ったりする姿があり、野球の楽しさの一端に触れる機会となりました。何より「チームの一員として大会に参加し、プレーできた時間は今後のモチベーションアップにつながる」と各チームより声が寄せられました。

【力を込めてバッティング!!】



【塁間16m 全力疾走☆】



太陽の光が射し、野球日和の中、東北信地区の計24チームが参加しました。その中には県内各地からの個人として参加する子どもたちの姿もありました。4ヵ所の特設ダイヤモンドで、4ブロック各6チームに分かれ、順位を決める予選リーグと一発勝負の決勝トーナメントを実施しました。接戦の試合が多く、最後の打者まで勝敗がわからない好ゲームばかりでした。信越硬式野球クラブのご協力ですmoothな試合進行ができたことも、ありがたいことでした。

★★試合結果★★

	優勝	準優勝
Aブロック	みゆき野ティーボールクラブA	延徳ネクススライオンズ
Bブロック	南部上高田少年野球	長野東 junior
Cブロック	望月リーグ	御厨神宮少年野球
Dブロック	上田南	みゆき野ティーボールクラブB

★★優勝チーム★★

みゆき野ティーボールクラブ（飯山市）



南部上高田少年野球（長野市）



望月リーグ（佐久市）



上田南（上田市）



今大会も「野球やソフトボールを始めるきっかけとなってもらいたい」「打つ・捕る・投げるといった競技性に触れ、楽しさを味わってもらいたい」「子どもが楽しむ姿を保護者に見てもらい、一緒に楽しんでもらいたい」という願いをもって大会を運営しました。選手全員が参加できる試合形式が共感を呼び、笑顔と歓声の絶えない大会となりました。保護者からは「普段は試合に出ることがないので、試合をしている姿が見られて嬉しい」「子どもが楽しかったと言っていた」「伸び伸びプレーしていて雰囲気よかった」などの声が寄せられました。

【広々とした人工芝へ気持ちよくスイング】



【お母さんも指導者も楽しく応援！！】



子どもたちの真剣な眼差しと笑顔は未来へつながる宝物です。今大会を通じて、昭和の時代に小学校の校庭でバットを用いずに手でゴムボールを打つ「ハンドベースボール」で仲間たちと楽しんでいた光景が連想されました。小学生にとって、投手がストライクを投げ続け、打者が正確に打つのは難しいものがあります。その点でティーボールは5、6年生で野球を本格的に始める先駆けとして取り組む競技としてふさわしいと感じました。練習試合や紅白戦でティーボールを行ってみてはいかがでしょうか。

野球人口の底辺拡大と野球振興をめざす長野県野球協会は、来年度も北信地区野球協会とともに、「プレーをする楽しさ」と「勝敗を競う楽しさ」を融合した第3回大会を開催したいと考えております。併せて、今後、ティーボールが他地区にも広がるように、発信に努めてまいります。

野球の日実行委員会 令和6年度事業報告

委員長 宮崎 平（須坂創成高校所属）

1 令和6年度の活動方針

野球競技人口の推移とこれまでの実行委員会としての活動から野球というスポーツの普及と競技者の継続を目的とした「第7回北信野球の日」の計画と運営

2 令和6年度活動目標

- | |
|---------------------------------------|
| ①第7回北信野球の日の内容検討と実行
②第7回北信野球の日の全容分析 |
|---------------------------------------|

3 令和6年度実施事業

①第7回北信野球の日

- 普及イベント：野球未経験者を主に対象とした長野オリンピックスタジアムでの体験会
継続イベント：少年野球4年生対象の野球教室、少年野球高学年と中学生との野球交流会

4 活動目標に対する成果と課題

成果	課題
普及イベント：来場者総数 1751 名、来場子どもアンケートでは「楽しかった」100% 「楽しくなかった」0% 来場者保護者アンケートでは「大変よかった」83.7% 「よかった」16.3% 「どちらともいえない」0%となり、入場者数は例年並みを大きく上回った。成果としては上々である。 野球教室：プロ・社会人チームの選手が講師となり2会場少年野球4年生 356 名が参加した。 野球交流会：少年野球 428 名、中学生 398 名が参加した。今年度交流会は中学硬式も含め、開催できた。昨年よりも会場を前回よりも2会場増やし、より多くの子供達が交流し、野球を楽しんでもらえた。	普及イベント：昨年度の反省より、5・6・7歳をメインターゲットとしたり、幼稚園・保育園にも開催チラシを配布した。チラシの配布は委員会関係なく多くの方に手伝っていただき効率的に遂行できたが、配布に関しては課題を残す。 野球教室：昨年度の反省から、高校生を多く動員できた。今回は4年生限定だったが、さまざまな角度から内容の検討を続けていく。 野球交流会：立ち上げから3回目となり、形になりつつあり、内容も盛況をいただいている。高校生を配置した会場は須く好評をいただいている。次回は高校生の配置を検討したい。

【総括】

普及イベントも継続イベントも人数を見れば盛況と言える。アンケート結果等を見ても概ね成功したと言えるが、やはり野球人口の増加を目的としているので、そちらが達成されることが真の意味での成功となるのだろう。この件については実行委員会での活動にのみならず全チームの課題となる。継続活動と合わせ、野球競技の発展をお願いしたい。

1 令和6年度の活動方針

- ・総会の企画、準備、実施。総会は、協会事業等に関する審議と承認、指導者研修の2本立てを基本方針とする。研修の講師などの依頼、調整については、指導力・競技力向上委員会と相談しながらすすめていく。
- ・賛助会員（企業・個人）を広げていく。持続可能な北信地区野球協会のためには、広く寄付を集う必要がある。→多くの方の寄付を募りたい。

2 令和6年度活動目標

<ul style="list-style-type: none"> ○継続的な寄付活動の実施 ○総会の企画運営
--

3 令和6年度実施事業

- ① 北信地区野球協会の活動に向けた寄付活動と、継続的な北信地区野球協会の賛助会員（企業、個人）の募集・依頼。
昨年度同様、寄付を募る。コングラントの継続。新規会員を増やすための取り組みを実施。
各カテゴリーの大会でのポスターの配付、掲示。
- ② 北信地区野球協会総会 企画運営
事務局と各委員会との調整。各地域の様々な取り組みの紹介。

4 活動目標に対する成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○寄付活動について ・寄付のお願いの通知の配付を拡大した。 ・昨年度より多く寄付金が集まった。 ・個人会員が増えた。 ・コングラントの領収書機能を使った。 ○総会について ・3か月前から準備を始めた。 ・事務局長、指導力向上委員長と連絡を密に取り合い、総会の内容を精選した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○寄付活動について ・北信野球の日に合わせて、寄付をしていただいた。 ・継続して寄付をしていただけるような工夫をしていく。 ○総会について ・1月には各委員長のみなさんに議案書を作っていただく。 ・早めに会場設定を行う。

5 【総括】

- ・毎年2月の総会の在り方を検討し、内容のあるものにしていきたい。
- ・総務委員会を定期的の実施できなかったため、寄附活動を充実させるため、zoomを活用しながら、定期的の実施していきたい。
- ・旅費支給を行ったことを、来年度も継続していきたい。
- ・イベントが増えているので、寄付金目標額を高く設定する必要がある。

6 寄付にご協力いただいた、企業・団体様、個人会員様（次ページ）

多くの皆様に、寄付をいただきました。
寄付いただいた皆様、ありがとうございました。

北信地区野球協会に協賛いただいております企業・団体様(敬称略)

株式会社 春原木材	株式会社 Reborn	JAながの野球部
loungeめだか	有限会社 ACEN	小林建築
株式会社 丸山商店	株式会社 長野県民球団	株式会社 豊和
株式会社 山口建築	公益社団法人 倉石地域復興財団 栗田病院	定鑑堂
株式会社 ふるさと石産	株式会社スクールユニホーム タカコウ	中野文具店
坂田木材 株式会社	長野スポーツマガジン	竹内塗装
中野土建 株式会社	有限会社 ユニバーサル・アイ	長野県ソフトボール協会 北信支部
株式会社 スター商会	株式会社 原建	株式会社 マルコメ
株式会社 フクザワコーポレーション	株式会社 宮坂総合寝装	KENzo cafe&bar
株式会社 滝沢板金塗装	株式会社 杏花印刷	社会福祉法人 アムール
株式会社 西澤製作所	三巧金属 株式会社	さがみフーズ株式会社
塚田建設 株式会社	石田通信機(株)	湯本建築
株式会社 長野経済新聞社	ゆでたんや ごっくん	長野県高校野球OB・OG連盟 北信支部

北信地区野球協会に協賛いただいております個人会員様(敬称略)

滝沢 圭介	倉島 公希	
畔上 健一	坂田 吉久	
滝沢 友和	村松 篤	
石田 三知夫	坂田 庄蔵	
村上 尚三	内海 達也	
千葉 信人	倉石 眞次	
中曽根 通	松橋 達生	
匿名	佐々木 昭吾	
村山 雅俊	大口 登志哉	
ウズハシ ノブヨシ	上原 智洋	
湯本 浩行	西澤 宏章	
花岡 健太郎	大内 謙二	
伊藤 秀樹	塚尾 誠貴	

※現在の活動は、北信地区の中高生の選手たちから徴収する活動費と、皆様からのご支援のみで運営しております。継続的な活動を行うために、ぜひご支援をお願いいたします。



普及委員会 令和6年度事業報告

委員長 清水伸彦（長野市少年野球連盟所属）

1 令和6年度の活動方針

野球・ソフトボールを含めたベースボール型球技の普及活動を支援する。特に、小学校低学年及び幼保への働きかけを目指し活動を行う。同時に、離脱する子どもを減らしていくことも目指したい。あるべき普及のために、広報委員会及び指導力・競技力向上委員会との連携を密にする。

2 令和6年度活動目標

①地域移行を見据えた普及活動の実践

複数チームによる活動

②U-8 及び幼保未就学児への普及イベントにおけるベースボール型球技体験の実施

③第2回Tボール大会への運営協力

3 令和6年度実施事業

①複数チームでの合同練習をU12 多数のチームで実施。

②NAGANO スポーツフェスティバルでのキッズ野球体験会を実施運営。

並びに学校法人篠ノ井学園南長野幼稚園でのBB型体験活動を実施。

③第2回Tボール大会へのU12 各チーム参加。

4 活動目標に対する成果と課題

成果

①U12 学童各チームにおいて、公式戦、オープン戦終了時に引き続き合同練習の機会を設定し実施。委員会で把握しているだけで50回以上の機会、40以上のチームで実施。

②NAGANO スポーツフェスティバルへの運営協力。キッズ野球体験会の場と捉え、北レクで実施。当日参加を含めて5名の児童と6名の未就学児、14名以上の保護者、また3名の3年生少年野球選手がサポート。

また、今年度協会初めての事業として幼稚園へ出向いての普及活動を実施。学校法人篠ノ井学園長野俊英高等学校スポーツクラス授業の一環として戸谷先生、湯本先生引率で協力を仰ぎました。（参加年長園児49名、高校生28名、協会普及委員他スタッフ9名）

③U8の選手中心に各チームで参加。

課題

1) 合同練習時は、高学年グループ、低学年グループに分けて実施したケースがあり、実施するチームの人数と会場によってはそれが十分可能だと考える。それぞれのレベル、見据える方向を鑑みながら活動できれば各チームの選手、指導者のスキルアップに繋がり抱える悩みも共有、解決の糸口の発見に繋がると考える。

2) 幼稚園へ出向いての普及に大きな可能性を感じた。特に今回は俊英高校の協力もあり、フレンドリーな雰囲気、園児目線に立った普及活動が出来たのではないかと。参加協力いただいた高校生に深く感謝したい。

3) 各団体や各チームにおいて行われている普及活動のノウハウを北信地区野球協会の持つ情報資源として活用していきたい。

4) NAGANO スポーツフェスティバル参加対象者を、初めて未就学児に広げたが参加人数は減少。昨年の会場のオリストと、今年の会場北レクとの違いも要因だったかと思われる。

【総括】

U-8 を大切にしながら各カテゴリー及び各チームが活動していけるようアイデアを集め、機会

を持ちみなさんと共有していきたい。そのためにも、自チームの活動だけにとらわれず、広い視野を持って各カテゴリー及び各チームと活動していきたい。もちろん勝負ごとにおける勝敗は重要です。北信地区野球協会は更にその一歩先、野球を始める前の子どもたち、野球を始めたばかりの子どもたちを大切にできているかを重要な推進軸の一つとしたい。《長野県野球協会の活動理念に基づけば》野球というスポーツを選んでもらい、野球というスポーツに触れてもらい野球人口の維持増加に注力したいところです。今年度もさまざまな場面でみなさまに普及活動を展開していただき感謝申し上げます。次年度以降もさらに力強い普及活動を展開していけるよう普及委員会としても尽力して参ります。

広報委員会 令和6年度事業報告

委員長 長谷川 良人（千曲市立屋代中学校）

1 令和6年度の活動方針

北信地区野球協会の行う普及活動、指導・競技力向上にかかわる事業の先行的な発信と共有

2 令和6年度活動目標

S N S（Facebook・Twitter・Instagram）、ホームページなどでの継続的な情報発信
 フォロワー数、リーチ数の増加
 北信地区野球協会での協賛・協力企業の広告的価値増加

3 令和6年度実施事業

普及活動、指導競技力向上にかかわる事業の募集、活動内容の周知

【継続】①活動・事業の様子発信。

→フォロワー数・リーチ数の増加 Instagram 1 1 0 0 X (Twitter) 2 0 0

→U-12 選手募集発信

【継続】②広告ツールを活用し、野球関係事業の参加希望者への周知、募集を図る。

→U-12 選手募集チラシの HP 掲載数の増加

→広告配布

（北信地区幼保小 5 0 0 0 0 部配布、ティーボール大会北信地区小 1～4 年 2 0 0 0 0 部）

【継続】③北信地区野球協会への賛助企業の募集 イメージアップ

→「北信野球の日」への集客力

→ 企業広告への寄与



4 活動目標に対する成果と課題

成果	課題
① フォロワー数 Instagram：8 9 4→1 3 6 0 X (Twitter)：1 5 3→1 5 5 令和7年1月8日現在 北信地区野球協会への協賛企業・団体を紹介した。 チーム選手募集チラシを北信野球の日に配付	北信野球の日でのフォロワー数増加の取り組みを継続的に行う必要がある。 協賛企業・団体・個人による寄付は、未だに苦しい面がある。
② U-15 北信野球チームマップを作成。 U-12/U-15 チームマップ・募集広告の野球の日に配付、掲示。	時期、内容を確認し、宣伝費をかけて情報を発信していく必要がある。
③ 北信野球の日 チラシ配布数 50,000 枚（北信地区幼保小）私立の園にも配付を拡大。ティーボール大会のチラシを今年は配付しませんでした。 賛助会員を SNS で発信。	配付チラシの仕分け作業は労力を要する。

北信地区野球協会 令和6年度総会

指導力・競技力向上委員会 令和6年度事業報告

委員長 山本 一博(南長野 BBC 篠ノ井 WEST)

1 令和6年度の活動方針

- ・指導者の指導力向上を目指して講習会の実施や、県協議会のライセンス取得の推進。
- ・選手の技能向上・健全育成を目指して U10, U12, U15, U18の各カテゴリーの指導内容に沿った講習会の実施。(一貫した指導体制の確立)

2 令和6年度活動目標

自ら考え、学ぶ選手の育成

～指導者の指導力向上と選手の技術力の向上、健全な育成を目指す～

3 令和6年度実施事業

7月	多賀少年野球クラブ(滋賀県)との交流試合 北信地区の6年生の中で選抜チームを4チーム編成し、4試合を行った。
11月	長野市中学生野球大会(交流戦方式)
11月	第2回長野県ティーボール大会
2月	・北信地区野球協会総会 指導者研修会 講師:小林正具氏(長野俊英高校) 松橋将之氏(長野日大高校) 小金沢和範氏(佐久長聖中学校)

4 活動目標に対する成果と課題

成果	・多賀少年野球クラブとの交流試合では、実際に、多賀の選手たちの試合での姿から、よい刺激をもらうことができた。また、北信選抜チームのベンチも指導者も前向きな声掛けを行い、明るい雰囲気の中試合をすることができた。 ・長野市中学生野球大会では、サインを監督が出さないようにしてみるなど選手が考えてプレーする機会を作ることができた。
課題	・協会の事業から学んだことが、参加した人や一部の人のところで止まってしまっているところがあるので、SNS等を活用しながら北信全域に広げていきたい。

※参考資料 ① 多賀少年野球クラブとの交流試合について

昨年2月の辻さんからの「私の話を聞いてもらうよりも、子どもたちの姿を見てもらいたいんですよ」という一言から始まった今回の交流試合ですが、百聞は一見に如かずとはよく言ったもので、多賀の子たちの姿から多くのことを学ばせていただきました。

保護者、児童の皆さんからは、アンケートの回答がいただけていませんが、スタッフの皆さんのアンケート回答をまとめ、報告させていただきます。

1 投球について学んだこと

とにかくシンプル。目的は？と常々おっしゃっていたことが注目すべきポイントです！
反復練習のときこそ目的を忘れたただの作業ですね！

試合中でも、「手首を固めて。」などの技術的なアドバイスをする辻さんに驚きました。それができるだけの練習量をこなし、技術が高い子どもたちなのだと感じました。
けん制について、相手監督がサインを出したくなるカウントでのけん制をルーティン化、アウトを狙うけん制、スタートをわずかに遅らせるけん制、ランナーの立ち居振る舞いから盗塁の兆しを感じる、などたくさんのヒントをもらえました。

次から次へとピッチャーが出てくる。ピッチャーができる能力を小学校のうちにつけていくことは今後の野球人生にとっては必要なことだと感じた。

「モーションの3パターン、スピードの3パターンで打ち取る。」

変化球が認められていない学童野球で、打者のタイミングをずらすために、モーションのスピードやボールのスピードを変えながら、それを組み合わせて投球している。

2 打撃について学んだこと

同じ骨を持つ人間は投げる打つ、走るは本来個性がないこと、小学生のうちにはトップをつくってバットを内側から出すこと徹底していることはピヨンドの力で打たないことの大切さを感じました。

「4点差が広がるまでは、スクイズ、エンドラン」4点差があれば守り切れる守備力がある。
多賀打ち、「ベクトルをピッチャー方向に向けるためにバットを肩にのせて助走を最大にとる」「速いボールを打つことで、むだな動きを省いた効率的なフォームで打つ」

そこまでヒットを打つ感じはしなかったが、積極的な走塁は見事だった。多賀打ち。子どもたちに聞くと威圧感があったみたいだった。打撃に関しては、子どもたちの自主性に任せがちであるが、構えやバットの出し方など、基本の型を教えることのほうが今後のためになると感じた。

「ベースの上に顔を乗っけろ」

構えの姿勢を覚えるための声かけ。前傾姿勢を作って、軸足に力をためる形から振っていた。構えの形を覚えるための有効な声かけだと思った。

「バットを握るのは、親指、人差し指、中指」

10本の指でバットを握るのは、インパクト直前だけ。薬指、小指は、緩めておいて、手が固まらないようにする。

「一死3塁を作ることを徹底する」

一死2塁の場面は積極的に盗塁をしかけ、一死3塁を作りにいていた。一死3塁からは、ヒットエンドランが多く、バッターは力むことなく、高いバウンドのゴロを打っていた。明らかに振り方を変えて打っていて、技術力の高さを感じた。

3 守備について学んだこと

試合中において必要な確認を的確にしていました。自分のみならず自分の隣との声かけによりディフェンスにおける一体感が生まれていました。

最高と最低をわきまえている。

最低なにをしないとイケないのかってどのカテゴリーでも大事。そして声かけはシンプル！

「ピッチャーの縦投は、後の方に安定している投手を出す」「攻撃で、全力で走ったピッチャーは外野で休ませる」自分のがもっていた概念とはちがう思想にふれてとても刺激的な学びがありました。

捕る。投げる。の経験値が圧倒的に違う感じがした。守備は練習した分だけうまくなるイメージがあるが、たくさんボールに触れる機会を作っている成果だと感じた。Aチームのショートの子のこなしは抜群にうまかった。

「走者2塁のときに、セカンドがベースに張り付く」

大きなリードを取らせないことで、シングルヒットで走者を返さないということを考えているのではないか。学童の守備位置ならではの作戦だと思った。ゲームの仕組みを理解し、何が大事で、何を許さないのかを考えて攻め方、守り方を決めている。

4 その他

「チームの成長は、指導者の成長に規定される」と感じました。子どもが上達しない、チームが勝てない、子どもが楽しめない、という現実に向き合うことがあります。そのベクトルを指導者である自分に向ける事ですが、良いチームにはならないと改めて感じました。

この4試合を通じて、辻さんが子どもたちに良質な情報、作戦、知恵、技術を惜しみなく与えてきており、試合で出る想定内の事は練習や確認に、想定外の事は新しい対応方法として力に変えているのが分かりました。特に、1試合目は多賀さんのベンチ横でライブ観戦させていただき雰囲気分かりました。正直、私の力量では、辻さんが子どもたちにかけていた言葉の意味が4分の1程度しか分からなかったのが現実です。私より、多賀の子どもたちの方が野球脳が上である事を感じ、それがそのままチーム力の差であることがよく分かりました。実を持って感じたとても貴重な機会でした。チームに、地域に還元していけるように学び続けます。

ウォーミングアップを兼ねながら、ノックをしたりランダウンプレーをしたりする事が、キャッチする量の確保という面でとても感心しました。6年生から入部した子など、練習時間が限られていて量を必要とする子にとってとても大切な視点をいただきました。

「上向け」「全力」

仲間が打ち損じたときにベンチから飛び交っていました。「上を向け」という声からは、「次に向かっていこうぜ」というメッセージを感じました。私が子どものころは、残念ながら「何かある（相手がミスするかもしれないから全力で走ろう）」という声が飛んでいました。ここは大人が作るべきチームの文化です。仲間がやるべきことを言っていきたいですね。

5 運営面の反省 よかったこと

今回も協会の皆様の企画力、行動力、当日の対応力からたくさん学ばせていただきました。辻さんもその熱量に共鳴してくださってのすごい企画でした。

皆さんのおかげで少年野球の指導者としてたくさんの学びがありました。指導者が学ぶことがチームや野球界が活性化するのに一番大切な事であると再認識しました。

協会の皆さんがボランティアでされていることに敬意がありません。本当にすごい方々が揃っている北信野球協会だと思います。ありがとうございました。

成田先生のインタビューの辻さんの答えから、学べることがとても多かったです。成田先生の質問から共有していただけたことがとても学びが多くありがたかったです。

高校の先生たちの協力がほしいです。理由は野球の未来の先はやはり、高校野球！北信地区の公立高校の低迷はこういうU12に向けた事業への協力の薄さにあるのではないかと思います。小学生や中学生に野球の技術を教えられない高校の指導者が私立高校に勝てるはずがありません。高重くんはじめ上伊那の指導者に学びたいですね！

学童の指導者の皆様にベンチを担当していただきましたが、明るい雰囲気づくりをしていただき、とてもありがたかったです。特に4試合目は、雨での中断もあり、プレーしている時間としては十分にとれませんでした。終始明るい雰囲気で行っていて、仲間を一生懸命応援する姿から、スポーツの良さを改めて感じました。多賀少年野球クラブや今回、ベンチを担当していただいた皆様から、大人がどういう雰囲気をつくるのかということの重要性を学びました。ベンチを担当していただいた皆様、ありがとうございました。



2-7

※参考資料 ② 長野市中中学生野球大会(旧:長野市少年野球大会(中学校の部))について

昨年から協会で運営するようになった長野市中中学生野球大会(旧:長野市少年野球大会(中学校の部))の取り組みを紹介します。今大会から交流戦方式で行うようにしました。交流戦にしたことで、昨年より選手の育成を意識しながら試合を行うことができたと思います。定期的にも新人戦とオフシーズンの間の時期ですので、春に向けての課題を確認することができました。大会要項のデータが欲しい方は、協会までお問い合わせください。

◇大会要項から抜粋

競技方法

- ・順位は決定せず、交流戦として行う。
- ・試合時間は、80分とする。(80分を超えて、次のイニングに入らない)
- ・7回終了時や80分を超えて、裏の攻撃が終わった時点で、同点だった場合は引き分け

努力目標について

選手起用の上で参考にしてください。努力目標はあくまで目安です。これを守らないことによってペナルティを課すということはありません。

① 個人の1日の投球数を70球までとする

今大会は、土日で4試合をこなすことになり、普段の大会より試合数が多くなっています。少しでも1人あたりの負担を軽減し、複数投手で大会に臨んでください。複数の投手を育てるきっかけになることを願っています。うまくいかないこともあるかと思いますが、お互いに勉強する場としましょう。

② 1日あたり、1人最低2打席は打席に立つ

上位大会につながる大会だと、チームによっては、頻繁に選手を交代することが難しいかと思えます。今大会は、みんなで野球を学ぼうという大会ですので、多くの選手にチャンスを与えてほしいと思います。

特別ルール

① 指名打者制

ピッチャーの打順のところで指名打者を置くことができる。指名打者制にすることで、ピッチャーは、守備時に準備や練習をすることができるので有効に活用したい。

② リエントリー(再出場)

先発した選手に限り、交代した後、同じ打順のところに帰ることができる。(リエントリーできるのは一度だけ)

③ ボールカウント

どの打者も0ボール1ストライクからスタートする。ピッチャー有利のカウントにすることで、展開の早いゲームにすることを目指したい。

【指導者の皆様へ提案、お願い】

協会主催の大会として、他の地区や他のカテゴリーのモデルとできればと思っています。今大会から交流戦で行うようにしたことで思い切った取り組みができます。大人が変わる姿勢を見せなければ、子どもが変わることはありません。北信地区から変えていくために力を貸してください。

① 前向きな声掛け

7月の多賀少年野球クラブとの交流試合でベンチでの様子を注目していましたが、終始前向きな声掛けをしていました。仲間が凡打を打ったときには、「上向け」「全力」と「今、何をすべきか」を仲間に伝えていました。「何かある」なんていう人はいません。そして、全力で1塁まで走ってベンチに帰ってきた選手はとても爽やかでした。うまくいってもいかなくても野球を全力で楽しめる子どもを育てたいです。そのためには…

② ノーサイン

サインを出さないという意味ではありません。大人がサインを出さないということです。最後責任を背負うのは監督ですから、公式戦は監督がサインを出すことでしょうか。全部とは言いませんので、サインを選手同士で出させる試合をやってみませんか。サインを自分たちで出すことで、そこに議論が生まれると思います。大人がサインを出すと、「あそこで何で…」というのは言いづらいかと思いますが、中学生同士だと言いやすいと思います。考えてプレーする楽しさを味わわせたいですね。指示待ち人間は、社会で求められていません。

③ 多くの選手に投手を経験させる

投手を育てるのは難しいですね。たとえ、将来、投手をやらなくても投能力を鍛えることはとても大切だと思います。そして、投手を経験することで投手の気持ちが少しでもわかると思います。簡単に「ストライク入れろよ」「なにフォアボール出してるんだよ」なんて言えなくなることでしょう。また、うまくいかなければ、自分の投球フォームを考えるきっかけになると思います。どうかこの交流戦で多くの選手をマウンドに立たせてあげてください。「コントロールをよくしたい」「強いボールを投げられるようになりたい」と多くの選手が望んでくれることを期待しています。

【大会終了後のアンケートより】

- ・監督がサインを出さないことで主体的な取り組みにつながった。
- ・基本は打順の前後で話し合っやる「ノーサイン」でやっています。多賀に学びました。
- ・選手一人一人が考えてやることをテーマに、ノーサインでやりました。
- ・70球制限を意識したことで、たくさんの選手が投手を経験し、投手の大変さに実感を込めて体感できたと思う。
- ・どのチームも相手へのリスペクト、審判へのリスペクトの気持ちが所作に表れてくるとよいと感じた。

地域化推進特別委員会 令和6年度事業報告

委員長 中村 京太（所属）長野市立東北中学校

1 令和6年度の活動方針

スポーツ庁の方針に基づき、令和7年度末を目途に、中学軟式野球の「部活動の地域移行」が着実に進展するよう、子どもたちの多様なスポーツ活動環境の確保と、野球に親しむ活動環境づくりの視点から関係者が協働し、段階的に部活動から地域クラブへ発展的転換を図る。

2 令和6年度活動目標

**「U15以下の全ての子どもたちが野球に親しめる活動環境づくり」
～小中協働、協会内協働、地域間協働、行政等との協働による「部活動の地域移行」の推進～**

3 令和6年度実施事業

- (1) 令和6年度総会にて、各地域（北信地区）の「部活動の地域移行」と取組を報告する。
- (2) 国、県及び市町村から発出される各種情報を適時、各地域に情報発信する。
- (3) 各地域※で、部活動の地域移行に関わる検討会議を実施する。

※各地域…「千曲坂城」、「南長野」、「北長野」、「須高」、「中高」、「みゆき野」 6地域

4 活動目標に対する成果と課題

<p>成果・各地区の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千曲坂城地区 <ul style="list-style-type: none"> ・「千曲坂城クラブ」の活動から発展し、「更埴北」「更埴南」の2クラブで活動している。 ○南長野地区 <ul style="list-style-type: none"> ・南長野クラブ化推進委員会を設立して検討を進め、今年度末から5つのクラブチームが発足する。（来年度中に4チームに再編成される予定） ○北長野地区 <ul style="list-style-type: none"> ・多くのチームの地域移行が進んでいる。平日の活動も地域移行したチームもあり、他チームや他地区のモデルとなっている。 ○須高地区、中高地区 <ul style="list-style-type: none"> ・新規チームが発足したほか、来年度中の地域移行に向けた準備が進められている。 ○みゆき野地区 <ul style="list-style-type: none"> ・地区を包括した「みゆき野軟式野球クラブ」が発足し、活動している。 ○国や中体連の動向等を中学軟式野球関係者等に発信し、地域移行の推進に向けた機運づくりに努めた。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国や県からの方針や手段、支援策等が明確に定まらない中で始まった「部活動の地域移行」のため、現時点では、市町村や地域、中学校、競技団体等によって方向性や取組状況が異なる。 ●多くのチームの地域移行が進んでいる中で、クラブチームとしての新たな課題や問題が生まれてきている。（人数不足による合同チームが中体連大会は認められない、チーム運営の財源確保等） ●学校主体で行われてきた部活動を、学校が関わらない地域クラブへ転換を図るためには課題が多い。 (例) 指導者確保と資格取得、活動場所への移動手段等。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>□北信地区野球協会は野球を通じた青少年の健全育成を目的に掲げていることや、事業重点に環境づくりを掲げていることから、北信協会が積極的に行政や連盟等と連携し、普及振興の視点からU-15以下世代の子どもたちの多様なスポーツ活動環境の確保に努める。</p>
---	---

5 参考資料

- ・令和7年度 地域クラブ活動の大会参加について
(長野県中体連ホームページ)
- ・「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」について
(スポーツ庁ホームページ)



長野県中体連 HP



スポーツ庁 HP

北信地区 U-15 軟式野球チーム (R7 春の予定)

「〇〇中」の表記は部活動 「・」の表記は合同チーム ★クラブチーム

地区	チーム名	主な活動場所
みゆき野	みゆき野軟式野球クラブ★	城南中
	木島平・野沢温泉中	木島平中央グラウンド
中高	中高 BBC★	中野平中・山ノ内中
	信州アストロズ★	中野市営運動場
須高	東軟式野球クラブ★	須坂市塩野ふれあい G
北長野	五岳 BBC★	飯綱中
	スポコミ東北★	東北中
	長野日大中	しんきんグラウンド
	NAGANO 三陽 BBC★	三陽中
	長野北部野球クラブ★	北部中校庭・体育館、浅川 G
	S クラブ★	犀陵中
	長野東柳クラブ★	北部レク、古里、邦友など
	南部球友クラブ★	犀川第2グラウンド
南長野	南長野 BBC 篠ノ井 WEST★	篠ノ井西中
	南長野 BBC 篠ノ井 EAST★	篠ノ井東中
	南長野 BBC スピリッツ★	今井 G、犀川グラウンドなど
	南長野 BBC 千曲川軟式★	松代中、若穂中
	南長野 BBC 稲里モンスターズ★	広徳中
千曲 坂城	更埴北 BBC★	埴生中、更埴西中、屋代中
	更埴南 BBC★	戸上中、坂城文化センター

北信地区 U-15 硬式野球チーム

団体	チーム名	主な活動場所
リトル シニア	飯山リトルシニア	飯山市営球場など
	須坂リトルシニア	須坂市野球場、県民 G など
	長野南リトルシニア	長野西高中条校など
	長野若穂リトルシニア	高山東部グラウンドなど
	長野東リトルシニア	東山 G、犀川第2 G など
	長野北リトルシニア	飯綱町日向グラウンドなど
	中野リトルシニア	中野市営豊田球場など
	坂城千曲リトルシニア	坂城グラウンドなど
ボーイズ	高山リトルシニア	高山村北部運動広場など
	長野ボーイズ	篠ノ井高犀峽校、信州新町 G など
	千曲ボーイズ	萬葉の里スポーツエリア野球場など

北信地区 U-15 女子軟式野球チーム

チーム名	主な活動場所
長野東ガールズ	犀川第2グラウンド

令和6年度 収支決算報告

(令和6年1月1日～令和6年12月31日)

北信地区野球協会会長 柴山 晋一
会計 小山 大貴

収入	2,011,435	円
支出	1,816,511	円
差引残高	194,924	円

【収入の部】	収入	2,011,435	円
--------	----	-----------	---

(内訳)

		金額
総会	参加費	266,000 円
寄附金	長野県高校野球OB連盟	60,000 円
	コングラント	75,966 円
	個人・企業・団体	535,000 円
補助金	長野県野球協会	462,834 円
謝礼金	長野市スポーツ課	70,000 円
利息		29 円
令和5年度からの繰り越し		541,606 円

【支出の部】	支出	1,816,511	円
--------	----	-----------	---

(内訳)

		金額
北信地区野球協会、トーナメント大会、特別大会	会場費	306,490 円
北信地区野球協会、トーナメント大会、特別大会	接待費(交通費、謝礼金、昼食代を含む)	292,001 円
北信野球の日実行委員会、普及委員会	アトラクション・ブース消耗品費	481,357 円
北信野球の日実行委員会、広報委員会	広告宣伝費	301,283 円
トーナメント大会、野球の日、広報委員会	保険費・雑費(輸送費、通信費等)	56,110 円
指導力向上委員会	長野市大会運営費(中学生)	80,696 円
総務委員会	会議雑費(事務用品)、旅費	298,574 円

・差引残高は、次年度に北信地区野球協会の会計へ繰り越されます。

会計監査の結果、上記のとおり間違いのないことを認めます。

令和 7 年 1 月 11 日

成田 浩和



湯本 浩行



Ⅰ 本会の目的

野球の振興, 発展, 競技力の向上・青少年の健全な育成(会則第2条)



【本会の目的達成に向けて大切にしたいこと】

「野球に携わってよかった」と全ての人を感じられるような環境づくり

- ・誰に対しても思いやりとリスペクトを持ち続けること。
- ・選手, 指導者, 保護者全員が北信野球の魅力, 未来づくりの当事者であり続けること。
- ・人とのつながりや人間関係づくり, 終わりのない技能の探究, 学び続けられる競技性等の野球の魅力に誇りをもつこと
- ・全カテゴリーの縦のつながり, 各団体, 支部の横のつながり(全ての連携)によって協働的に野球の振興, 発展, 競技力向上や子供の育成を進めること。
- ・野球の普及と競技力向上の両立が野球の振興と発展, 子供の育成になること。
- ・選手は野球を通して自律することを学んだり競技力向上に努めたりする事を通して, 心身ともに成長すること。
- ・指導者で学び続ける指導者あり続けること。
- ・保護者は全ての子供たちのサポーターであること。

2 令和7年度の事業重点

(1) 15歳以下の全ての子どもたちが, 自らが望む野球に取り組める環境づくり(～令和7年移行期完了期間)

北信地区では, U-15マップにあるとおり, 協会が主体となり, 地域移行の受け皿づくりを推進し, 硬式軟式すべてクラブチームとして令和7年度はスタートができる。4年かけて話し合ってきた結果と受け止めている。そこで, 来年度は, U-12・U-15が共に同じクラブチームとして連携していきたい。「15歳以下の全ての子どもたちが, 自らが望む野球に取り組める環境づくり」をテーマに, **中学軟式だけでなく, U-15硬式, U-12と連携しながら事業を展開することが重要**だと考え, 下記の通り, 部活動の地域移行の推進を地域の野球環境づくりとして捉えて, 各委員会の事業を展開する。**R6年度, U-12野球人口が増加したことを起爆剤**としたい。

【活動方針】

- ・北信地区野球協会が主体となって, 中学顧問を中心とした地域移行検討のサポートを継続する。
- ・U12の大会のあり方や練習環境のサポート **(R5年度に実施したU-12指導者保護者アンケートを活用)**
- ・軟式硬式指導者及びチームの交流推進。(「BFJ公認野球指導者」「JSPO軟式コーチ」などの取得推進)

【目指すすがた】

- ・野球に対する考えや姿勢が多様な子どもたちが主体的な判断によって野球を選択できる受け皿の構築
- ・15歳以下の子どもたちが野球だけでなく, 様々な活動や生活体験から学べる環境づくり。
- ・指導者の横のつながりの構築(自分のチームだけでなく, 他チームの良さも理解する)
- ・指導者の発掘, 指導者講習会(勉強会)の実施。指導者は子どもの選択をサポートするコンシェルジュ。

(2) 社会とつながり, 社会をつくる北信野球への発展

【活動方針】 R7北信野球の日 11月30日(日) at長野オリンピックスタジアム

- ・北信野球の日では, スポーツ全体の輪を広げられるように, 野球以外の競技との協働を図る。(継続)
- ・普及イベントとしてのティーボール大会を通じて, その可能性を北信地区全体で共有し, **小学校中低学年(U-10)のこれから野球をはじめ子ども達への支援**を図る。
- ・理事役員に野球以外のスポーツ競技, さらには地域経済, 行政と関わりの深い人材を増やす。

【目指すすがた】

- ・他競技と協働しながら、北信のスポーツ全体の発展に貢献する。
- ・行政や地域とのつながりを強化し、野球に限らずさまざまな事業を拡大する。
- ・R7年11月30日(日)の北信野球の日、11月中旬予定のティーボール大会と、未就学児、小学校低学年、中学年、高学年、中学生、高校生とそれぞれが、活躍する場を設ける。大人も子どももみんなで横のつながりを大事にしていく。

3 委員会再編について(別紙事務局提案参照)

「会則の変更」→役員改選、委員会の変更等について(案)

別紙、事務局提案資料 **北信地区野球協会 令和6年度総会 第2号議案 事務局提案** をご覧ください。

3 R7年度事業計画

通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回+オンライン理事役員会の運営(4月 8月 <u>10月 11月</u> 1月) ・二大イベントの「ティーボール大会」・「北信野球の日」の来賓接待、外部団体との連携、調整、オリンピックスタジアムとの調整・連携 ・各部(委員会)の活動の調整 ・長野県(長野市)スポーツ課と連携、マスメディアへの対応 ・長野県野球協会、他各地区主催の会議・イベントへの参加・協力 ・北信地区各団体 U-12・U-15・U-18 の報告・連絡・相談・調整、メールにて発信等
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>北信地区野球協会総会 (事務局と各委員会との調整)</u>

4 R7年度 予算案(事務局)

理事役員会費用 接待費 各種会議準備費用	100,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・会場費、湯茶・弁当代(夜間)等 ・印刷代(チラシ含む)、事務用品代 ・ZOOM年会費、PC周辺機器等
各種会議出張等参加交通費 (理事役員会含む)	50,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区への講師及び委員の派遣費用 ※長野県中体連旅費規程を参考 <u>(郡市内) 1回 500円</u> <u>(地区内) 1回 500円</u> (県内) 1回 3,000円 (県外) ※1回 10,000円



「会則の変更」→役員改選、委員会の変更等について (案)

北信地区野球協会事務局長 塚尾誠貴

提案 1 (会則改正)

会則改正 (案)

○旧

第 12 条 本会の事業遂行のため、次の委員会を事務局内に常設し、その他目的達成のために必要な委員会 が認められた時に随時委員会を設置する。

- (1) 北信野球の日実行委員会
- (2) 北信ベースボールサミット実行委員会
- (3) 広報委員会
- (4) 普及委員会
- (5) 指導力向上委員会

となっていました。委員会の変更にともない、以下の文に変更とする提案をします。

○新

第 1 2 条 本会の目的の達成や事業遂行のため、必要な部署や委員会を理事役員会で協議の上設置する。

提案 2 (1~6)

長野県北信地区野球協会 会則第 8 条および第 9 条に基づき、令和 6 年度をもって、現理事役員は任期を終える。したがって、令和 7 年度、8 年度の理事役員改選について、次のように提案する。

1 R7 年度会長、副会長について

会 長：村上 尚三氏(軟式野球連盟北信連合会 会長)

副会長：松橋 達生 氏(長野県高校野球 OB・OG 連盟)

副会長：坂田 吉久 氏(長野県野球協会)

2 事務局について

事務局長 (兼北信地区地区長) : 塚尾 誠貴 氏 (北信中体連)

副事務局長 (財務部長) : 小林 大真 氏 (北信中体連)

副事務局長 (普及・継続部長) : 宮寄 平 氏 (北信高野連)

副事務局長 (指導・競技力向上部長) : 齋藤 貴弘 氏 (北信中体連)

副事務局長 (兼広報部長) : 長谷川良人 氏 (北信中体連)

・部活動の地域移行の推進状況、新理事役員、新委員長への補佐など、昨今の野球を取り巻く状況から副事務局長を各部部长として円滑な事業展開につなげる。

3 アドバイザーについて

令和 7 年度の全体事業方針から、他競技の普及、発展に精通する人物をアドバイザーに迎え、他競技との連携をはかり、野球界の発展につなげる。

4 理事、幹事について

理事、幹事については、各団体 (小中高) の充て職となっている。現在務めている団体内での協議踏まえて、**令和 7 年 4 月 26 日 (土) 予定**の R7 年度第 1 回理事役員会にて決定する。また、二大イベントが行われる会場も長野オリンピックスタジアムであるため、県野球協会の理事でもある高橋京一氏も理事に入っていただく。

5 財源担当について

今後の事業を持続可能なものにするために、理事役員会内で財源確保の中心的役割を果たす財源担当を設ける。その職に坂田吉久副会長、財務部 (寄付委員会) に継続して担当をお願いする。

6 委員会の変更について (各委員会は 3 つの部署の中に入り、動きやすくする)

U-15 軟式指導者は、R 7 年度から部活動ではなくなるため、中学校教諭の数が今後減少していく。(引き続き希望すれば指導可能ではある) 今後、委員会メンバーや各委員長が U-15 軟式指導者 (中学校教諭) にかたよらないようにする。これまで通り、小中高の指導者のあて職ではあるが、より委員会の規模を小さくすることで活発に行い、バランスをはかっていく。

北信地区の U-15 軟式のクラブ化が完了する見込みがたったため特別委員会である「地域化推進委員会」を発展解消する。しかし、地域移行の第一段階が終了しただけで、今後も発信等の必要性があるため、「広報部」に組み込む。

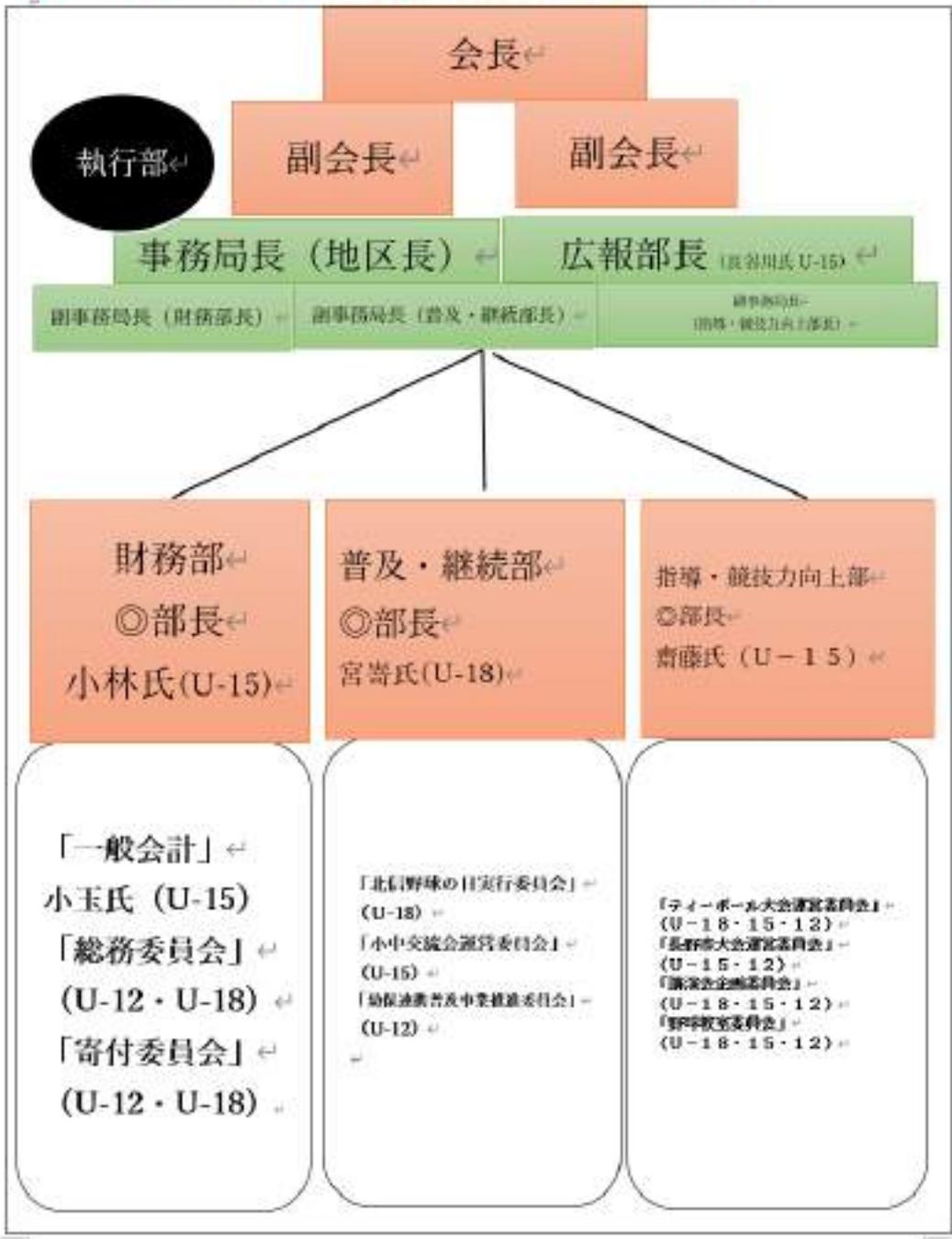
「野球の日実行委員会」が中心になって行う「北信野球の日」だが、オリスト会場以外で行っていた小中交流会・野球教室を別委員会とする。よって、普及委員会を発展解消し、「普及・継続部」に組み込む。

R7年度北信地区野球協会委員会 全3つの部署の中に小委員会（オンラインも積極的に活用し部会を増やす）

- ①「執行部」…事務局、副事務局 広報部長 会長・副会長
 広報部長 …各種イベント、地域移行の状況を随時発信、U-12・U-15 マップの更新、HP 管理
 事務局長 …委員会の統括と、県協会との連携、理事役員会の運営
 （対面で年5回、4月8月11月1月+10月～11月（ティーボール大会、北信野球の日前）と2月（総会前）はオンラインも活用し2週間に1回のペースで行う）
- ②財務部 「一般会計」「総務委員会」「寄付委員会」…通年の寄付、総会の運営
- ③普及・継続部「北信野球の日実行委員会」「小中交流会運営委員会」「幼保連携普及事業推進委員会」
- ④指導・競技力向上部…「ティーボール大会運営委員会」「長野市大会運営委員会」「講演企画委員会」「野球教室委員会」

※「一般会計」・・・②財務部所属 …1月～12月会計担当、総会に向けて会計監査を行う。予算案作成など

R7年度 北信地区野球協会組織図（案）



広報部 令和7年度事業計画（案）

長谷川 良人（千曲市立屋代中学校）

1 令和7年度の活動方針

北信地区野球協会の行う普及活動、指導・競技力向上にかかわる事業の先行的な発信と共有

2 令和7年度活動目標

SNS（Facebook・Twitter・Instagram）、ホームページなどでの継続的な情報発信
フォロワー数、リーチ数の増加
北信地区野球協会での協賛・協力企業の広告的価値増加

3 令和7年度事業計画

普及活動、指導競技力向上にかかわる事業の募集、活動内容の周知

【継続】○活動・事業の様子発信。

- フォロワー数・リーチ数の増加 Instagram 2000 X (Twitter) 200
- U-12 選手募集発信

【継続】○広告ツールを活用し、野球関係事業の参加希望者への周知、募集を図る。

- U-12 選手募集チラシのHP掲載数の増加
- 北信地区野球チームマップの更新
- 広告配布
(北信地区幼保小5000部配布)

【継続】○北信地区野球協会への賛助企業の募集

- 「北信野球の日」への集客力
- SNSでの賛助企業、個人の発信

4 次年度予算

広告出稿費用 40,000円
ホームページ維持管理費 40,000円



1 令和7年度の活動方針

<総務委員会>

・総会の企画，準備，実施。総会は，協会事業等に関する審議と承認，指導者研修の2本立てを基本方針とする。研修の講師などの依頼，調整については，指導力・競技力向上部講演会企画委員と相談し、進めていく。

<寄付委員会>

- ・広く継続的な寄付を集う。
- ・賛助会員（企業・個人）を広げ、北信地区野球協会の活動を持続可能な活動にしていく。

<一般会計>

- ・一般会計予算を効果的に執行し、透明性と効率性を高めます。

2 令和7年度活動目標

賛助会員の拡大 北信地区野球協会の活動に向けた寄付活動の拡大 持続可能な活動に向けた財源の確保

3 令和7年度実施事業計画

<総務委員会>

北信地区野球協会総会 企画運営

- 4～5月 委員の選出
- 6～10月 委員顔合わせ
- 10～11月 会場準備 事務局・指導競技力向上部（講演会企画委員会）と相談、準備。
- 12月 議案書準備
- 1月 理事会にて審議 ミーティング
- 2月 総会運営

<寄付委員会>

- 4～5月 委員の選出 顔合わせ 寄付活動
- 6～11月 寄付活動 新規会員を増やすための取り組み
- 12月 寄付活動へのお礼

寄付を募る。コングラントの継続。新規会員を増やすための取り組みを実施。
各カテゴリーの大会でのポスターの配付、掲示。

<一般会計>

- ・財源の確保と配分
- ・予算の主な収入源と支出先の説明

4 令和7年度の予算

総会費（会場費、講師謝礼、講師宿泊費、印刷費、オンライン配信必要経費等）	150,000 参加費 1,000 円 ×70 懇親会費 6,000 円×40	・総会準備費用（会場費、講師謝礼、講師宿泊費等） ・印刷代（会議資料等）、事務用品代 ・配信用の PC 周辺機器代
--------------------------------------	---	---

交通費	50,000 円	<p>・各地区への講師及び委員の派遣費用 ※長野県中体連旅費規程を参考</p> <p>(郡市内) 1回 500 円 (地区内) 1回 500 円</p> <p>(県内) 1回 3,000 円 (県外 ※1回 10,000 円</p> <p>※県外の場所によって金額は要相談</p>
-----	----------	--

普及継続部 令和7年度事業計画

部長 宮崎 平（須坂創成高校所属）

1 令和8年度の活動方針

幼保・小学生への普及と競技者の継続

2 令和7年度活動目標

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 野球人口増加に向け、未就学児へのアプローチ② 経緯と成果の分析から普及イベントを充実させる③ 野球交流会の運営委員会を立ち上げ、競技継続の一助とする |
|--|

3 令和7年度事業計画

○北信野球の日実行委員会

第8回北信野球の日 日にち 令和7年11月30日（日）

4～5月 実行委員の選出・委託

6～7月 実行委員会顔合わせ

8～9月 イベント概要考察→理事役員会にて審議

10月～ 第7回北信野球の日に向けたミーティング（定期）

○野球交流会運営委員会

11月30日（北信野球の日と同日）に協会主催の交流会を実施したい

4～5月 実行委員の選出・委託

6～7月 委員顔合わせ

8～9月 会場責任者等の打ち合わせ

11月～ 実施・報告・反省会

○幼保普及推進委員会

4月 実行委員の選出・委託・顔合わせ

5～12月 各地区での幼稚園・保育園へ普及活動

12月～ 実施・報告・反省会

4 次年度の予算

○第8回北信野球の日 予算 550000円

内訳：運営費 200000円

用具費 200000円

広報費 150000 円

○野球交流会運営委員会

予算 50000 円

○幼保普及推進委員会

予算 50000 円

指導・競技力向上部 令和7年度事業計画（案）

部長 齋藤 貴弘

1 活動方針

- ・指導者の指導力向上を目指しての講習会の実施や、県協会のライセンス取得の推進
- ・選手の技能向上や健全育成を目指して U10, U12, U15, U18 の各カテゴリーの指導内容に沿った講習会や大会の実施。（一貫した指導体制の確立）

2 活動目標

自ら考え、学ぶ選手の育成

～長野県野球育成指標に基づいた指導者の指導力向上と選手の技術力の向上、健全な育成～

3 部内の委員会と所管事業

(1) ティーボール大会運営委員会

① ティーボール大会の開催(11月中旬)

長野県野球協会と共催する予定。ティーボール協会とも連携しながら企画運営し、U10 カテゴリーの育成を図る。

② ティーボールの普及

U-10 カテゴリーの育成に大きな効果があるティーボールを、各チーム、各地域で定期的実施することを目指して、ティーボール協会と連携しながら普及する。

(2) 長野市中学生野球大会運営委員会

① 長野市中学生野球大会の企画と運営(11月)

U-15 軟式カテゴリーの育成を目的とした大会の運営。長野市スポーツ課と連携。育成重視のレギュレーションを設け、選手にとって課題発見の場となるような大会にする。

② 長野市以外の地域大会の協力と大会の在り方についての検討と提言

これまでの大会運営をもとに、選手の育成につながる大会の在り方について検討して提言する。また、長野市以外の地域大会に対して運営スタッフや審判などが必要な際に派遣する。

(3) 講演会企画委員会

① 北信指導者研修会の企画と運営(2月)

総会後の指導者研修会の講師選定等、研修会に関するすべての企画運営を行う。

② 指導者ライセンス取得の情報提供

BFJ 公認野球指導者資格や日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格等の資格取得講座の情報提供や資格取得の呼びかけを行う。

③ 技術講習会、指導者講習会の企画と運営(通年)

各地域でチームの枠を越えて、選手や指導者が共に学び合う講習会の企画運営。ただし、各団体で開催される講習会との重複がないよう調整しながら検討し、各団体が主催する講演会等のアナウンスも行う。また、指導者の派遣も要望に応じて行っていく。

(4) 野球教室委員会

令和7年11月30日の北信野球の日に、北信地区2会場で、学童を対象とした野球教室を企画運営する。

4 年間計画案

通 年	・ティーボールの普及 ・技術(指導)講習会の企画と運営 ・各団体による講習会のアナウンス ・指導者ライセンス取得の情報提供
11 月	・長野市中学生野球大会 ・第3回ティーボール大会 ・北信野球の日 学童野球教室
2 月	・北信地区野球協会総会 指導者研修会 研修内容・講師の選定は概ね半年前から委員で準備する

5 予算

- ・講演会企画日・野球教室企画日 100,000 円

会場使用費、用具費などの諸経費。講師謝礼については講師の本拠地や講習内容、これまでの事業等を鑑みて執行部、理事役員会で協議して決定し、事務局から支払う。企画内容によっては、参加費を徴収することもある。

- ・長野市中学生野球大会運営費 100,000 円

会場使用費や用具費などの諸経費。長野市スポーツ課からの補助金で運営できるように長野市スポーツ課へ予算申請をしている。

- ・予備費 30,000 円

令和7年度 北信地区野球協会 会計予算(案) (令和7年1月1日～令和7年12月31日)

北信地区野球協会会長 村上 尚三

会計 小山 大貴

1 収入の部	1,554,924 円
2 支出の部	1,554,924 円
3 差引残高	0 円

[収入の部]

項目	令和7年度予算額	内訳
繰越金	194,924	令和6年度北信地区野球協会繰越金
補助金	500,000	長野県野球協会
	70,000	長野市スポーツ課 *長野市大会の委託費として
寄附金	700,000	
協力金	20,000	長野スポーツフェスティバル
総会参加費	70,000	1人1,000円×70名
収入合計	1,554,924	

[支出の部]

項目	令和7年度予算額	内訳
(1) 執行部・事務局	330,000	
1、総会費	100,000	会場費、印刷費
2、交通費	50,000	派遣費用
3、ホームページ制作、管理運営	80,000	ホームページ維持管理費
4、旅費	100,000	各委員会、事業運営スタッフ分
(2) 普及・継続部	550,000	
1、北信野球の日 運営費	200,000	オリスト使用料、保険料、接待費、企画
2、用具費	200,000	新規用具購入、用具、ボール(普及イベント・幼保活動含)
3、広告費、チラシ代	150,000	
(3) 指導・競技力向上部	230,000	
1、長野市大会運営費	100,000	会場使用料、用具、企画
2、講演会企画費	50,000	企画、会場使用料
3、野球教室企画費	50,000	会場使用料、用具、企画
4、予備費	30,000	各企画の広告費、用具費
*Tボール大会の運営については、長野県野球協会より補助金をいただきながら運営していく。		
(4) 各委員会	200,000	
1、会議費	100,000	資料作成、印刷費、事務用品代、ZOOM年会費等
2、講師への謝礼	100,000	各企画の講師への謝礼
(5) 予備費	244,924	備品整備や普及活動などにあてる。持続可能な組織となるために資金に余裕を持たせて運営する。
支出合計	1,554,924	

「令和6年度 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」

北長野ベースボールクラブが北信越地区代表として大会参加

11月2日(土)～11月5日(火)にかけて「令和6年度 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」が静岡県伊豆市・伊東市で開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり2022年から各地区10チームの縮小枠で実施されておりましたが、本年度は全国16チーム、北信越ブロック枠も2チームに拡大された大会となりました。

北長野ベースボールクラブは令和5年度に軟式ボールから硬式ボールへのスムーズな移行と高校野球へ繋がる基本動作の習得を目的に設立され、本年度は2期目になります。中体連の地区予選、県大会、北信越大会を終えた希望者を中心に長野市を南北に分け、北長野ベースボールクラブは長野市・飯綱町・信濃町の中学3年生24名が本年度は集結しました。週末を中心に練習し、都道府県対抗長野県大会や11月に諏訪市で行われる硬式ボールでの大会に参加する計画で活動してきました。本年度は9月14・15日に行われた都道府県対抗長野県大会で見事優勝し、長野県代表として9月29日に北信越大会に参加しました。北信越大会では、1回戦富山県代表の氷見北部中学校を5-0で破り、全国大会出場権を獲得、続く決勝戦においても新潟県代表の新潟県選抜チームに延長8回タイブレークの末5-3で勝利し、北信越大会初優勝を成し遂げました。

全国大会初日は大雨のため順延となり、初戦は11月3日東北ブロック代表「盛岡U15 ジュニアユース」と対戦しました。北長野ベースボールクラブは



先発の横地さん(北部中)が4回を完璧に抑える内容で5回終了時点では2-0とリードしておりました。しかし、6回裏にひとつの送球エラーから一気に3点を奪われ逆転を許し、最終回も反撃ならず3-2のスコアで惜敗、敗者復活戦に回ることとなりました。

翌日の4日は同じく1回戦で敗れた千葉県代表の「千葉ファイターズ」と対戦。北長野ベースボールクラブは先発の野池さん(櫻ヶ岡中)が昨日の悔しさをバネに粘投、毎回スコアリングポジションにランナーを置く苦しい展開でしたが、4回途中まで0点に抑え、昨日好投の横地さんへリレーし、6回を終了し0-0最終回の攻防を迎える展開となりました。7回表、攻撃が奮起し無死2、3塁から高林さん(長野日大中)の犠牲フライで1点先制し、一死3塁からスクイズを試みるも相手バッテリーに見破られ失敗、その裏粘る相手も一死3塁から同点に追いつき延長戦となり、8回タイブレークの末2-3のスコアで惜敗、2回戦に駒を進めることができませんでした。



長野県勢は、コロナウイルスによる縮小大会となっただけからこの都道府県対抗野球大会において、北信越大会の壁を越えることができませんでした。しかしながら、選手ひとりひとりが今大会準決勝まで駒を進めた盛岡U15 ジュニアユース(2018年以來の大会参加)、

130km/h を超えるストレートを投げ込む投手陣が並ぶ千葉ファイターズを相手に、臆することなく立ち向かっていました。選手には全国レベルの野球を体感し互角の勝負ができたことを自信にして、これから長野県高校野球界を盛り上げていってくれるのではと期待しています。



夏の全国中学生総合体育大会での佐久長聖中学準優勝や東日本大会での松本国際中の準優勝、今大会での長野県チームの健闘を考えると県レベルでの技術力向上を続けていくことが長野県中学野球界の更なる躍進に繋がっていくと実感しています。我々関係者一同より一層の努力を続けて参ります。

北長野ベースボールクラブの選手、指導者、全ての関係者の皆様大変お疲れさまでした。最後に、北長野ベースボールクラブ 小竹大助監督からの「令和6年度 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆を終えて」を掲載します。ご覧ください

長野日本大学中学校野球部 顧問

北長野ベースボールクラブ 監督 小竹大助

「令和6年度 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」を終えて

本年度、2期目を迎えた北長野ベースボールクラブは中体連の地区予選、県大会、北信越大会を終えた3年生を対象に、高校野球へ向けて硬式ボールへ早く慣れること、基本技術の再徹底を主たる目的として立ち上げたクラブチームです。活動の計画の中に都道府県大会への出場、硬式ボールを使った大会への出場を取り入れ、週末を中心に活動しています。幸いなことに都道府県大会長野県代表決定戦、北信越地区代表決定戦を勝ち上がらせていただき、上記の全国大会への出場機会を得ることができました。これもこのチームを日頃より支えていただいているチームスタッフや保護者の皆様のご協力、また連盟の皆様のご支援なしでは実現しなかったことだと感じています。改めて感謝申し上げます。

さて、今大会に参加させていただく中で私なりに強く感じた点について述べさせていただきます。私も昨年度、北長野ベースボールクラブの発起人であります柴山晋一様から、中学軟式野球が終わる6月から11月の間、高校野球を強く志す子ども、迷っている子どもを中心に週末、硬式野球ボールへ慣れる、高校野球において必要な基礎動作をできる範囲で伝えていきスムーズに高校野球をスタートさせたいという強い希望をお聞きし、私なりに協力できればと考え、勤務先である長野日本大学中学校長の許可を頂きスタッフに入れさせていただきました。都道府県大会へは昨年度も参加し南長野ベースボールクラブに惜敗、今年度は9/14に1次予選で佐久ベースボールクラブ、南長野ベースボールクラブをそれぞれ先制されながらも逆転する展開で勝利、翌日に中南信予選を勝ち上がった南信州 CLUB との県代表選においては3回まで1点を追う展開の中4回裏に同点、6回裏に2点勝ち越しすることが成功し、相手チームの反撃に耐え4-3の1点差で勝利し、北信越代表決定戦へ駒を進めることができました。

北信越代表決定戦は9/29 新潟県佐藤池球場にて第1試合富山県代表の氷見市選抜と対戦。ゲームは先発した横地さん(北部中)がバッターの手元で落ちるスライダーを中心に相手打線を封印し5-0で

全国大会への出場権を獲得、決勝戦では新潟県選抜と決勝戦を行い選抜の野池さん(南部球友)が粘投し2-2のまま延長戦へ突入、8回タイブレーク5-3で勝利し、北信越地区第1代表として全国大会へ進むこととなりました。北信越地区のチームと対戦を経験する中で新潟県選抜のレベルの高さ、選手の質とスタッフの意識の高さに正直驚愕しました。勝利させていただいたとはいえ選手の選出方法、練習量についてもお話をお聞きさせていただく中で長野市だけでなく長野県全体で何か変化させなくてはいけないのではと感じながら帰路につかせていただくと同時に、全国大会への期待と不安を強く感じる1日となりました。

全国大会は新型コロナの影響を受け3年前から復活する形となりましたが、昨年度までは全国10チームと縮小した大会は、本年度は全国から16チームの代表と規模を拡大させての大会となりました。

北長野ベースボールクラブは1回戦東北ブロック代表の岩手県盛岡U15ジュニアユースと対戦。前半2点を先制するも小刻みに投手リレーする相手投手5名から追加点を奪えず終盤へ、終盤6回ランナー1塁の場面からサードゴロダブルプレーを焦った内野陣が送球、捕球エラーし1、3塁にその後犠牲フライ、タイムリー2ベースと畳み込まれ2-3で敗退、翌日の敗者戦へ回ることとなりました。

翌日は前評判では優勝候補の筆頭といわれていた関東代表の千葉県選抜の千葉ファイターズがまさかの1回戦負けで敗者戦に回り対戦。前半戦お互いの投手が好投し常にランナーを背負う苦しい展開ではありましたが6回を終え0-0のまま最終回に、北長野ベースボールクラブは先頭の2塁打を皮切りに1点犠牲フライで先制、なおも1死3塁の場でスクイズを仕掛けますが相手投手に外され1点差で最終回の守りに、千葉の先頭打者が気迫の右中間3塁打そこからバッテリーエラーによって1-1の同点、タイブレークでも相手の流れを止められず3-2のスコアで敗れ本大会2試合とも敗戦する結果となりました。

この大会でも各県の足の速さ、投手のスピード、変化の鋭さ、身体の高さ、スイングの速さそして勝負に対する貪欲な姿勢など、多くを勉強させていただく場面がありました。そして何より各チームのスタッフの意識の高さには驚かされる経験となりました。

選手の選考方法も各県大変厳しく、選手たちの野球に取り組む姿勢を拝見していると選出された選手へのプレーに対する意識づけに至るまで各県を代表するにふさわしい立ち居振る舞いを感じました。我々も北信越地区の代表意識をしっかりとって臨んだつもりですが改めて勉強させていただく場面が多くありました。

子供たちにも今回の大会を通じて全国大会のレベルの高さや自分たちに足りない点を強く感じて高校へ進んでいってほしいと思いますが、長野県中学軟式野球に携わっている我々指導者も全国大会のレベル、選手に養ってほしい技術や基礎体力など、他府県との差を強く感じて指導に取り組みなくてはと痛感致しました。子供たちに連れて行ってもらった舞台上に私たちに足りないと感じたことをぜひ多くの指導者の皆さまに伝達し、少しでも長野県の野球レベルが向上するように変わっていかなくてはならないのではないかとこの大会を通じて感じさせていただくことができました。微力ではありますが長野県野球界の発展のため精進してまいります。

この度は誠にありがとうございました。

「第17回GasOneカップ学童軟式野球選手権大会」

TeamNが長野県代表として大会参加

9月7日(土)～9月8日(日)にかけて「令和6年度 第17回GasOneカップ学童軟式野球選手権大会」が埼玉県さいたま市・戸田市・熊谷市で開催されました。参加チームは関東及びその近県の各都道府県等代表チームで福島県、新潟県、長野県、松本市、静岡県(2)、茨城県、栃木県(2)、群馬県、千葉県、東京都、山梨県、神奈川県、埼玉県(2)の合計16チームでトーナメント方式での優勝を争う大会です。TeamNは高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメント長野県大会で準優勝し出場権を獲得、昨年に続き2年連続での出場となりました。

TeamNは高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメントに出場し優勝を目指すこと及び各選手の技術力(考え方含む)向上を図り所属チームに戻った時に役立つ情報を提供することを目的として設立された南長野地区中心の合同チームです。今年度の選手は西寺尾ライオンズ、御厨神宮少年野球、二ツ柳柳沢地区少年野球の3チームで6年生10名、5年生4名、合計14名の活動となりました。活動時間は基本、毎週日曜日の午後で各チームの練習時間に支障のない範囲で行いました。

尚、TeamNのストロングポイントは次の通りです。

1. 目標が明確:長野県選手権制覇。
2. 明確な目標を持って集まった選手のため意識が高い。(さらに高める指導が容易)
3. 短時間での効率良い練習。(日曜各チーム活動後)
4. 全国レベルとの対戦(3月:東日本選抜)で県制覇に必要なレベルを肌で感じ目指す方向が定まる。
(選手、指導者、保護者)
5. 経験豊かな指導者陣。(勝てるチーム作りのエキスパート)
6. このような環境でシーズンを過ごす選手の著しい成長。

今年度は、前年12月～2月に選手募集及び体験会実施し主に体育館で基礎練習中心に体の使い方について指導。3月に入り、3月30日(土)～31日(日)4月6日(土)に茨城県で開催される第20回東日本少年野球交流大会に向けグラウンドで練習を開始しました。本大会はマクドナルドトーナメントで準優勝経験をもつ荃崎ファイターズ(茨城県)・不動パイレーツ(東京都)他、全国大会経験チーム及び茨城県内ベスト16のチームが出場、全32チームの大会です。現状チームの実力とチームワークの醸成が目的です。1回戦は茨城県の上中妻ニューフレンズと対戦し、初回から相手打線に掴まり13-1での敗退となりました。相手打線の攻撃力とアウトを取れるところを取れない守備の甘さが上記結果となったと思います。この結果を受けて選手たちは宿舎に戻ると、選手自ら『素振りをしたい』との前向きな意見があり、各個人毎に指導しスイングの矯正を図りました。その効果かわかりませんが、翌日の交流戦は14-8で桜川ツインズ(茨城県)、7-9で大宮パワーズ(埼玉県)に勝ち次のステップへ前日の反省が生きた結果がでました。今大会感じたことは、上位進出チームの打者はスイングが速いということがわかり各選手の意識が変わったと思います。

そこで、北信大会に向けてチームの方向性と個々選手の強化ポイントについて指導者間での情報共有を図りました。まず、打者についてはストライクゾーンの確認とコース別の打ち方、下半身主導のスイングの徹底。

守備については打球に対する入り方とグラブの使い方の確認。投手についてはスムーズな体重移動と割の大切さ、間の取り方の指導と試合で投げられる選手育成が必要であることを確認しました。

4月～5月に入ると正確に送球する練習とチーム内の連携プレー、試合を想定した打撃練習、特に3塁走者がいる時に、いかに得点を取るかの方法について全員に徹底を図った。また、投手陣については試合での相手バッターとの攻め方の確認をしました。

いよいよ最大の目標である高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメントの北信大会が5月19日(日)に始まり2回戦で戸倉ファイターズと対戦2-2(4回コールド)勝利、同日に代表決定戦で緑ヶ丘・川合新田野球部と対戦8-5(5回時間切れ)勝利し長野県大会に進みました。

北信大会代表決定戦の緑ヶ丘・川合新田野球部戦では1回表に四球から安打が絡んだ6点が試合を有利に進められ勝利へ導いた要因だと思います。また、同時に対戦相手の緑ヶ丘・川合新田野球部の最後まで諦めない精神力について当チームも見習いたいと思いました。

いよいよ、高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメント長野県大会6月15日(土)～16日(日)に開催されました。

1回戦

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
Team N	1	1	5	4	3		14
丸子塩川 GLANZ (東信)	0	0	1	1	0		2

本塁打1本、3塁打3本などで打線がつながり大量14点取り5回コールドで勝利。

2回戦

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
神明コンドルズ(南信)	2	4	2	2			10
Team N	0	8	4	×			12

6対0で迎えた2回裏に四球とヒット7本で一挙8点とり逆転、3回同点になるもその裏ヒット3本で4点取り再逆転勝利。

準決勝

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
Team N	0	0	2	2	6		10
飯田ファイブスターズ(南信)	1	1	2	0	1		5

4対4で迎えた5回表に満塁本塁打などで一挙6点とり勝利。

決勝

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
Team N	1	0	0	0	0		1
塩尻BBC(中信)	7	6	0	2	×		15

1回裏ヒット8本打たれ一挙7点取られ逆転、2回裏にも6点取られ完敗したが準優勝でGasOneカップ出場権を獲得しました。

県大会は1回戦こそ点差が開きましたが、その後の2回戦、準決勝とも打撃戦になり勝負所で集中打がでた方が勝利できる展開となり全員野球で何とか決勝に進むことができました。今年こそ優勝と望みましたが投手陣が踏ん張れず大量失点を許し今年も準優勝に留まりましたが選手には「ケガ人がある中、本当によくやった。」と労いの言葉をかけました。



7月～8月は限られた時間の中、県大会の結果の反省を生かした練習と練習試合をしました。

G a s O n eカップ調整を兼ねて第43回長野県学童軟式野球選手権秋季大会(松井秀喜旗争奪第20回学童野球大会)8月25日(日)から始まり、8月31日(土)に2回戦でみゆき野ドリームと対戦14-0(5回コールド)勝利、9月1日(日)に3回戦で上水内ベースボールクラブ6-0(5回コールド時間切れ)勝利するも雨で準決勝以上9月7日(土)になりG a s O n eカップと重複し辞退する事になる。今大会は県大会の結果に基づいた練習を生かすことができ2試合とも投打に圧倒できたと思います。

9月7日(土)から第17回G a s O n eカップ学童軟式野球選手権大会が始まり1回戦T e a m Nは熊谷市のおふるcaféハレニワスタジアム熊谷で新潟県代表の両川スポーツ少年団との対戦となりました。

1回戦



試合は、お互いに点の取り合う展開となりました。6対3で迎えた4回裏に小島君(西寺尾)の2打席連続のホームランで同点、続く佐藤君(二ツ柳・柳沢)スリーベースヒット、平森君(御厨神宮)の内野安打で逆転した5回表にワンアウトからヒット、外野のエラーでチャンスを作られ動揺しているところでダブルスチールを決められる。そこで内野手の送球エラーで再逆転され敗退となりました。

この試合は普段、捕球できていたフライを落球、送球エラーがでた後に長打を打たれる展開となり自分達のペースが掴むことができずに終わった合同チーム最後の試合となりました。

試合には敗れましたが、新チーム結成時に比べて選手一人ひとりの成長が著しく6年生は中学生で野球を継続してほしいし5年生は最終学年で有終の美を飾れるよう頑張ってください。

最後に選手諸君お疲れ様でした。また、保護者の皆様及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今年の反省を生かし、来年こそはもう一段高みを目指し頑張っていきたいと思います。

長野県野球育成枠組み



段階	基礎者			選抜候補者				国際選抜者(成年)			
	目安	幼児～小学校6年生or6歳以上のシニア			～大学生				高校生～プロ野球選手orメジャーリーガー		
ステージ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
定義	基本動作の習得										
イメージ	ジュニアの競技参加										
思い	無敵										
内容	<ul style="list-style-type: none"> ①身体的能力や応用力を確立し始める。走る、投げる、捕る等の基本的運動動作を学習、実践し動作を習得する。 ②用具を伝える。 										
指導者	保護者、兄弟、家族、友人、遊び仲間										
休養	スポーツ庁、長野県運動部活動規定による										
試合	※ライセンス取得の推奨										
練習	※要めることを重視し、否定面を使わない。										
技術	投げ	①指導ではなく、「投げろ」経験重視。			①長野県野球マニュアルの活用。				長野県野球マニュアル参考		
	捕る	指導ではなく、「捕る」経験重視。			安全かつ合理的な捕球技術の徹底				各指導者による		
	打つ	①指導ではなく、「バットを以ってボールを打つ」経験重視。			各指導者による。				各指導者による		
	走る	①「鬼ごっこ」等の遊びの中で走る。			①理論に基づいたフォーム指導。				各指導者による		
投手	①大会(各団体規定による) ②練習(ピッチスマート参考)										
捕手	①大会(各団体規定による) ②練習(ピッチスマート参考)										
医学	①必要な傷害予防と管理。グループセッションを通しての栄養教育。 ②「パフォーマンス強化物質の教育。 ③基本的な動き/筋骨格スクリーニング(動作力学または同様なモデル)。 ④必要な傷害予防介入。 ⑤個人およびグループでの栄養教育。 ⑥パフォーマンス強化物質の教育。										
身体(フィジカル)	①コーディネーションアップの能力を高めるためのトレーニングを実施。 ②基本姿勢の形成(静的/動的)。 ③体重支持能力の開発。 ④心肺の形成。 ⑤腕と体重の操作性能力の向上。										
調整(コンディショニング)	①自分の体性感覚をさらに磨いていく時期 ②自分自身の感覚で感じ取る時期 ③様々な体の感覚や発達発達を促す体の軸を知る柔軟性を高める これらの具体的な運動 トレーニングメニューの提示										
栄養	①食への関与 ②食への関与 ③食への関与 ④食への関与										
禁止薬物使用(アンチ・ドーピング)	①アンチ・ドーピングに関する基本的なアンチ・ドーピングに関する情報の収集とその方法を身につける。 ②アンチ・ドーピングに関する最新の情報を収集し、実践すること。 ③アンチ・ドーピングに関する最新の情報を収集し、実践すること。										
心理学(メンタル)	①メンタルの強化 ②メンタルの強化 ③メンタルの強化 ④メンタルの強化										
科学	①科学的な知識を得る。 ②科学的な知識を得る。 ③科学的な知識を得る。 ④科学的な知識を得る。										

北信地区野球 協会総会研修 会



北信地区野球協会

総会事後アンケート

